

# 令和6年度 保育実践報告書(職員自己評価)

## 1. 実施目的

本アンケートは、保育現場における子ども中心の保育の実践状況を把握し、今後の改善点を明確にすることを目的として実施した。

## 2. 実施内容

保育士を対象に、保育の各項目について「かなりできている」「できている」「あまりできていない」「ほとんどできていない」の4段階で自己評価を行い、自由記述にて課題や反省点を記入してもらった。

## 3. 集計結果の概要

### 3-1. 実践できている項目(評価が高かった項目)

- ・ 子どもの興味・関心を把握し、コーナーを設定している
- ・ 子どもとの信頼関係を築いている
- ・ 笑顔で子どもに対応している
- ・ 子どもの思いや考えを保育に生かしている
- ・ 流れる保育を取り入れている
- ・ サークルタイムで自由に話し合える雰囲気がある

### 3-2. 改善が必要な項目(評価が低かった項目)

- ・ 手作り玩具の提供と持続性
- ・ クールダウンスペースの設置
- ・ 一斉保育の進め方と年齢に応じた配慮
- ・ 禁止語の使用
- ・ 自分で考える場面の設定
- ・ 自立を促す掲示物や環境づくり

## 4. 自由記述から見えた課題

課題	内容
手作り玩具	壊れやすく、修繕してもすぐ壊れる。忙しい時期に準備が疎かになる傾向。
環境設定	机上遊びが機能しない、クールダウンスペースが不足している。
一斉保育	年齢に応じた取り入れ方が難しく、競争を煽る言葉が使われる場面がある。
声かけ	禁止語や急かす言葉が出てしまう場面がある。
自立支援	掲示物や動線の工夫が不十分で、自分で考える場面が少ない。

## 5. 今後の改善提案

### 5-1. 手作り玩具の質と持続性の向上

- 丈夫で長持ちする素材選び
- 子どもの発達段階に応じた設計
- 忙しい時期でも継続できる制作スケジュールの工夫

### 5-2. 環境設定の見直し

- クールダウンスペースの個別設置
- 机上遊びのコーナーに保育士が関わる配置
- 自立を促す動線と掲示物の工夫

### 5-3. 言葉かけの見直し

- 禁止語や競争を煽る言葉の代替表現を共有
- 保育士間で声かけの事例を振り返る時間を設ける

### 5-4. 一斉保育の段階的導入

- 年齢ごとの発達に応じた一斉活動の内容と時間を調整
- 子どもが主体的に参加できる工夫(選択制、役割分担など)

### 5-5. 子どもが自分で考えて行動できる環境づくり

- 掲示物や道具の配置で「自分でできる」環境づくり
- 自分で考える場面(選択、相談、発表)の意図的な設定

## 6. 今後の取り組み

- 保育士間での定期的な振り返りと共有の場を設ける
- 実践事例の記録と共有による保育の質の向上
- 必要に応じて研修の実施(流れる保育・サークルタイム・言葉かけなど)